

■「第65回全国ろうあ者大会 in FUKUOKA」に参加して■

ろう盲者参加者が、16名すると情報が入ったためにその機会を得て参加する事に決めた。

会場 / 福岡国際センター・福岡国際会場 他

日時 / 2017年6月1日(木)～6月4日(日)

6月4日(日)の大会式典、アトラクション・ファイナーレに参加。

○第1部 大会式典

創始より紡がれた手話への想い! 「福岡から未来へ」

○第2部 アトラクション・ファイナーレ

那須英彰による一人芝居

「聞こえない人にも運転免許を一

田箆勝三・欠格条項と苦闘したろう者の物語」

○LAI(らい)

ふくこい連・ふくこい踊り隊

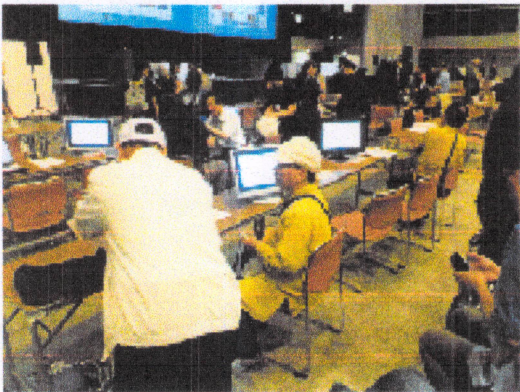
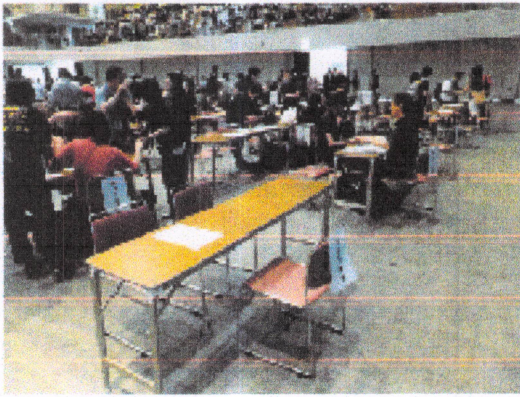
福岡で活躍するよさこいの方々によるよさこいを披露

式典の時は、ろう盲者に通訳する状況は問題はなかった。しかし、午後の部アトラクションに入ると、諦めて席を外すろう盲者が目立った。

◆大会時の様子◆

- ・舞台の前下に長テーブル、椅子が並べられていた。パソコンが何台か置いてあった。(弱視用のために準備してあるもの)
- ・文字(字幕)要約準備はあり。モニターの方は小さいので、いっぺんに2つ出て来るとするのは、ろう盲者にとっては見やすいのかどうか?
- ・長テーブル、椅子が並べてあったが、通路にとっては、ろう盲者にとっては狭すぎるし、移動しづらく危ない感じがした。
- ・パソコンのコードなどは地面にあって、絡まっているので、歩くとき、引っかかる恐れがあった。
- ・テーブルが高いせいか、モニターが高く、ろう盲者にとっては疲れやすい姿勢になっていた。
- ・触手話をするときもあのテーブルでは高く、疲れやすい姿勢であった。ろう盲者も触手話通訳者も疲れやすい。
- ・座る所も工夫が必要。
- ・広い空間なのにせまくしてあった。広々と余裕もった広さでテーブル、椅子を置くとよい。
- ・那須英昭氏の一人芝居のときは、ろう盲者に伝えにくくなっていた。ろう盲者は、諦めて席をはずすことが目立った。

■状況様子は写真の通り



報告者 秋山實